

中齋塾東京フォーラム
平成 30 年度 第 4 回講話

平成 30 年 4 月 14 日
於 湯島聖堂

おはようございます。頭の中に時事評論からと比田井さんから言われたものが残っていきまして、最初に論語のお話をして論語の話の中から時事評論を組み入れる。そして基本哲学から恒例の質問をするという形ができてまいりましたので、そういうふうにまいりましょうか。

衛霊公 第十五

【八】子曰く、志士仁人は生を求めて以て仁を害すること無く、身を殺して以て仁を成すこと有り。

【九】子貢 仁を為さんことを問う。子曰く、工 其の事を善くせんと欲すれば、必ず先ず其の器を利くす。是の邦に居るや、其の大夫の賢者に事え、其の士の仁者を友とすと。

今日の論語は「子曰く、志士仁人は生を求めて以て仁を害すること無く」志士は何でしょうね。

比田井さん、如何でしょうか。予習をしている方は誰だろうと思って、比田井さんが目についた。…急にふったけれども、きちんと答えがぱっと出ました。比田井さんは、中齋塾で論語に親しんで、ご自分で論語の塾を始められて、もうだいぶ経ちました。

比田井理事長代行—そうですね、10年になります。

単純明快にいきます。「志士仁人」の「志士」は、志のある人が志士です。「仁人」というのは仁のある人だから、できている人。

「志士」は志をもって挑戦している人、チャレンジ中の人。「仁人」は到達した人、完成した人ですので、チャレンジし始めたのが志士であり、ゴールに到達した人が仁人であるとなれば非常に単純明快になります。さてそこで、今のご時世で「志士」がどれくらいいるのかな、「仁人」はどれくらいいるのかなと考えてみると、いないですな。「志士」はい

っぱいいると思う。志というのは、大きな志でも小さい志でもいいが、何か目的を持って進み始めた。進もうと決意して一歩でも半歩でも進んだらば志士です。仁は人様のためになることをやっている、やりたい。そこに到達した人は階段を少し上りだした。ずっと上まで行った、途中まで行った。その差はあるけれども、私はここまで来たかと思ったら仁人であると勝手に宣言したっていいと思っています。宣言するのは勝手ですから、周りが認めるかどうかは別ですけども。そうとでも思わなければ、最近の森友・加計問題、比田井さんが何で言わないのか。比田井さんばかりですが、理事長の挨拶があるとそれを題材にして話すのですが、今日は理事長の挨拶がなかったから、ぱっと見たら比田井さんの顔が目についた。

以前、森友・加計問題なぜ話さないのかと言っていました。素直な気持ちでいうと森友・加計を話すと口が汚れるのではないかと思っていましたので、早くそんなくだらないことは止めて、国会がやるべきことをやりなさいと前に思ったから言いませんでした。いま思っていることは、志士はいっぱいいるけれども、仁人はどうでしょうか。

「国会議員になったからには、誰でも内閣総理大臣になりたいと思うものです」と、前に言いましたが、拡大解釈をしてみれば安倍首相は内閣総理大臣になって、もうゴールしている人。ゴールしている人は仁人というわけだけでも、仁を目的としていない。さてそうなりますと今の政界、官界の中で志を持っている人はたくさんいるが、ゴールに到達した人は自他ともに認める人はいない。そう思うと今、野党がいろいろ言っていること。証人喚問で出てきても何も言わない人。それらは何を示しているかという、安倍内閣は早く退陣しなさいということです。安倍さんいつまでしがみついているのか。野党がいろいろ言うものはその一点です。官僚も余計なことを言ったりやったりして、辞めた後の元官僚も余計なことをして、どんどん日本の民族劣化を世界に喧伝していると感じます。ここらへんは早く幕引きをしなさいと、普通に言えば圧力が高まっているという言いかたでよいと思います。そうすると森友・加計問題については、さっさと早くけりをつけてというよりは、早く退陣しなさいという声が大きく、もっと大きくなってさっさと辞めてもらえばよいと思う。論語の「志士仁人」から連想いたしました。

「生を求めて以て仁を害すること無く、身を殺して以て仁を成すこと有り」 この文章で氣になったのは**「生を求めて以て仁を害すること無く」**の解釈で、論語の解説は朱子が『論語集中』で解説をしています。朱子は「死ぬべき時に死ねば 心が安らかに あの世にいける」一瞬、朱子の最期はどうなのかなと思いましたが、その時でできたのは一休さんです。一休さんというと親しみやすいけれど一休禪師というと少しもったいぶった感じがしますね。一休禪師の「今までは他人のことと思いが 今度は俺か これは堪らん」こちらのほうが素直です。

私は災難に遭ったとき、災難を逃れる方法は災難から逃げないこと。正面から受け止めなさいとよく言いますので「死ぬべき時に死ねば心が安らかだ」は、どうも私にはピンとこない。それよりは「今までは他人のことと思いが 今度は俺かこれは堪らん」まさか明

日死ぬとは思わないから、こちらのほうが素直で良いし、じたばたしながら死ぬばよかろうという気がします。例えば松下幸之助が亡くなる時、何かで読んだ記憶がありますけれども「死にたくない、死にたくない」と、生にしがみついて執着し「俺は死なない」と言っただけで亡くなったとあります。亡くなった後に周りの人達が「あの人は安らかに心穏やかに素直にあちらに逝かれた」と言ったほうが格好よいですし、周りの人が綺麗な文章を作っただけで残っていると私は思う。また表情もつくる人がいて、死ぬ寸前に何かそういう訓練をしていけば穏やかな顔で死ぬだろうし、死ぬ時には死に顔が穏やかな表情にする物質が放出されるそうです。人間は死ぬ時は穏やかな顔をして死ぬのがごく普通の人。だけれど俺はこんなことで死ぬに死ねないと思いつつ死ねない人、憤怒の形相で死ぬのでしょ。

朱子はもう一つ「死ぬべき時に生を求めると心に不安がある」とあり、朱子の解説には死ぬべき時に私は死にたくないと思っただけでじたばたしているのは、心の中に不安がいっぱい詰まっているから、もうちょっと心穏やかに死になさいとお説教をたれている。この「**生を求めて仁を害すること無く**」の解説で朱子がいったことは、こうだったのかなと思えば良いでしょう。

朱子が出たから王陽明の最期は、これは腹の中はわからないけれども、船中で非常に穏やかに臨終をとげた記録が残っていますけれども、王陽明はもう引退させてくれと言いつつながらも戦場に送り出され、そして弟子の教育もしていました。帰る船の中で、穏やかな死に顔を見せてあの世に逝ったとあります。

余計なことを考えました。映画で亡くなった人に化粧をする映画「おくりびと」がありました。韓国は人が亡くなると泣くことを生業にしている集団がいるようです。泣くことを生業にするのだったら、死に顔を作る人がいたっておかしくはない。

論語を読んでいると、次から次に色々なことが連想できます。ポイントは連想したときに何なんだろうと思っただけで終わりにしないで、その後調べる。自分で調べることが大変だと思っただけで、その道の専門家に調べてもらって教えてもらう。

洪澤栄一がどう解説したかという、仁は「一身を殺して衆のために死」自分の命を他の人々に差し出して、自分が死んでも他を助けることができる人・考える人・これが仁だということです。その際に目の前の利益、私利私欲を捨てて（この頃は国家のことを考えますから）国家の交易に準ずれば博愛の徳となる。洪澤栄一から見て、その当時の政界、官界はどういうものかという、今の政界官界と似たような物で、もっと大がかりに私腹を肥やしていました。今の日本の場合は私腹を肥やす方法は、巧妙にやっているのだろうと思います。見えないですね。色々な国が経済破綻を起こしてどうにもならなくなった。私は各国を見てまわった時に、汚職・賄賂があまりにもはびこったがために、その国は潰れていると感じたのですけれども、それはやり方が下手だったと思う。あまりにもあからさまに誰が見ても私腹を肥やしている。そういう仕組みを作ったと分かるようにやっている。日本の場合は分からないようにやっていると思います。分からないようにやっているものが最近ちらっと世の中に出てきた。洪澤栄一のいた明治時代の頃は、私利私欲で自分

のところには入れるけれども、入れたものをまた人様のために出すことも結構していた。岩崎弥太郎はまた違いましたが、岩崎弥太郎は三井三菱に負けないだけの金を稼ぐため、また私利私欲でお金をたくさん集めた。岩崎弥太郎は渋澤栄一に二人とも儲かるから手を組んで一緒にやりましょうと言ったが、渋澤栄一は蹴飛ばした。岩崎弥太郎は、渋澤栄一の銀行に預けた金をある日突然そっくり出してしまう。預かったお金で利益を生むわけだから、全額引き出されたら、渋澤栄一は潰れるだろうと岩崎弥太郎が仕掛けた。でも渋澤栄一は歯を食いしばって潰れてなるものかと思ひ考えて、どこに金があるかと一所懸命に考えたら、国の金なら無尽蔵にある。大蔵の事務次官寸前までいったから金のあるところは知っている。どこをおせば金が出るか分かっているから、国に乗り込んでいった。色々な理屈がありますけれども、国の金を引き出して自分の銀行を守ったら、岩崎弥太郎がたいしたものだと手を引いて一段落したということがあります。

「**身を殺して以て**」で考えると、大塩平八郎がです。何となく義挙というように伝わっていますが、大塩平八郎の弟子がお供を連れて会っている時に、その中でぼろっと拳兵の話が大塩平八郎がした。お弟子さんはこんな秘密を聞かされたら一緒に働きに加われという話になるから、かなり激論を交わしました。その後、師匠が用意した部屋に泊まりましたが、弟子は自分が連れてきたお供に「師匠は私を殺しに来るから、お前はこの話を他の弟子たちに告げなさい」と裏口から出そうとしたところに大塩平八郎がやって来て「やはり生かしておくわけにはいかん」と襲撃してきました。かろうじてお供は逃げられたから話が後世に伝わっているということですが、自分の弟子に秘密を明かしたからって殺しに行くことはないだろうと思う。弟子がそんなことでいちいち言いに行きはしないだろうと思う。私は、その一点で大塩平八郎は氣にくわんと思っています。

世の中に出ている話は、世間に伝わっている話と、あまり伝わっていないけれども、どうも本当っぽいというものがあります。本当っぽいというものは、いくつか調べてみると裏が取れる。裏を取ったら喋ってもよいだろうと思う。ただ裏を取るということで怖いのは、学者は文章で残してあるものを信用する。その文章が嘘かもしれないし、嘘でなくても自分が信じて書いた物が文字で残っていると、学者は無条件に信用する癖がある。学者は字を見ると本物だと勝手に思う。そういう習性がある。ですからそこらへんで、同じデータからとった話ではなくて、違う客観的な事実みたいなことをもとにして書いてある物まで探せば裏が取れたということになると思います。

次、新聞の話をして。昨日の4月13日です。「政府不祥事連日の発覚」「与野党から批判」与党がくつついたのが面白い。「森友・加計 時間せつなる疑惑」等あり、あとは状況が色々書いてありますけれど、日本民族が劣化したということを一所懸命に書いて、他の国が喜ぶことを書いてある。それから今日の読売新聞は「説明責任 与党も強調しているが自民党は真実わからない。野党は内閣退陣へ結束」ここらへんがどうも引掛かる。内閣退陣を結束するのではなくて、日本の国を良くするためには、こういう新しい内閣を作りましょうと、そのために野党は結集する。そうすると今の内閣は邪魔だから下りても

らおうというスタイルでいけばいいのですが、ただとにかく今の内閣を倒せばかりで、その先の展望まで見えない。説明責任、与党の責任だったら、これの説明責任はメディアも説明責任が問われると思う。この間、西谷さんから新聞社に関する新書をいただきました。納得がいった。朝日も読売も毎日も皆な苦しい。背に腹はかえられずやっている部分があると思いました。攻撃する手は緩めないけれども情状酌量で酷いことを言うのはちょっと緩むかもしれないなと思います。

それから農水省の文章で愛媛県の知事が認めて、今後県の関係者が国会招致を求められたら私がいつでも説明に行くと言ってありますが、確かに愛媛県に火が飛んで、県知事が出てきて説明をすることは自分の腹は痛くないから行けるのでしょうか。でもまあどんどん広がることだと思います。

新聞の見方で、これだけ政府やその関係者が劣化したら次に出てくる人はどうなのでしょう。次に出てくるというのは、今日の新聞で「消費税影響最小限に 10%検討初会合」そろそろアドバルーンを上げておかないと消費税 10%がスムーズにいかないから、お忘れなくということを出したのかな。よほどの事がなければ 10%は進めるでしょう。本屋に行って中身は分かりませんが、雑誌の見出しに「今の日本の状況を良くするためには消費税 40%がいい」とあった。凄いことをいうなと思う。そうすると所得税が 45%、住民税が 10%、合わせて 55%。間接税を 40%取ったら 95%で日本は存続しないじゃないかと思うが、余分ですね。

今の信用できない政府、官僚の人達が進めているものは、もう疑惑の眼差しで見ることができない。それで他の国はどうかかなと思ってみたら、いっぱい出ていること。アメリカがシリアの攻撃について準備が整うと書いてあるけれど、西洋はイギリスがロシアの追加制裁に対してさらに研究中。研究中でアメリカとよく打ち合わせをしていると出ていて、同じページでインドが防衛産業を誇示してミサイルや防衛に関する物、製品をお安くするので買ってくださいとある。台湾に関しては潜水艦建造計画を進めるにあたってアメリカが部品の商談を発表し台湾が軍事力を強化している。よくこうやって書くなと思うけれども中国が台湾周辺での軍事活動を活発化させているので台湾の防衛能力をさらに向上させているとアピールしています。中国をけん制と見出しに書いてあり、インドが自国は凄いよとやっている。イギリスもそれに似たことをしているという事で世界がどんどん不安定化していると、いっぱい書いてあります。どこもかしこも同じ穴の貉で、手を変え品を変えて、同じところで繰り返している。

例えばプレジデントという雑誌があります。私は、この黒板の大きさに二棚ぐらい持っています。そうすると 10 年サイクルぐらいで、ものによっては 5~6 年ですけれども一つのテーマを追いかけて同じような記事が載ります。例えば坂本龍馬に関しての特集で、詳しいことがあるかなと思ってみると、過去の物を引っ張りだしてきて、ちょっと味付けする。これは電通と同じ方法だと思いました。電通の商売の仕方で思ったものは、ゲートボールを世の中に広めたいと関係者が思った。それで良い知恵ないかと声をかけていたら電

通が手を挙げた頃、私は青年会議所でゲートボールに若干関係していました。それで電通が1億円だったかな、それぐらいの金額を貰っていたので、そこから少し分けて貰おうと思って青年会議所も協力となったら、確か1千万ぐらいだったけど貰った。その時の電通の営業の仕方を詳しく聞いたら、雑誌プレジデントと同じです。過去の歴史を並べて、10年前の似たような話はこういうことがありました。20年前、30年前もこういうことがありましたと、たくさん資料を集めて目次を作って、ついでには今回の件に関する提案はこれぐらいでございますと、ちょびっと上に乗っかる。ところが見た人は凄い資料がどさっと来るからびっくりして量で驚く。中身は表紙をめくって目次を見て驚く。そういうものの集大成として少々の提案が入っている。こんな手法で億単位の金を稼ぐのかと思いました。何でそんな話をしたのか。問題が出たら、他の国々も日本の官僚のやり方も、組織を運営管理していく者は、だいたい同じことを繰り返しています。ですから頭の中に歴史が入っていて、こういう手法はいつ頃とった手法だなと思ったならば調べれば良い。次はこういう手を使うだろう、ああいう手を使うだろうと出てくると思います。仕事をしている時に何か大きな問題があると前はどのようなものがあつたかと調べませんか。そうするとそこから資料をとりませんか。それに基づきながら判断をする。余分なことをいえば、もっともらしく書いて、皆さんが納得すればいいんだからと感ずります。

時事評論で、もうひとつ気になるものは少子高齢化、人手不足。日本の国はもう悲鳴をあげて余計なことをしている。昨日の夕刊「バス、タクシーの免許緩和 21歳引き下げ検討」という見出しがあります。読んでみたら、運転手が足りないから高校卒業した人に運転手をさせるための法律を整備します。それから日本の人手不足が酷いから外国人がどんどん日本の中で働けるようにする。5年間の技能実習で働いてもらった人は国へ返すという仕組みでしたが、さらに日本に5年間居残って10年間は日本で働いてくださいという法律ではなく、新しい資格を創設する方法で検討に入った。来年の4月に実施とある。実施というのは2019年4月に外国人労働者向けに、新たな在留資格を創設する方法で検討に入った。若干時間がずれてもそういう事です。こういう類のものが増えています。それで煽る文章がいっぱいある。

「子貢仁を為さんことを問う。子曰く、工其の事を善くせんと欲すれば、」子貢が「仁は何でしょうか」と、仁のことを聞いたのではなく「仁を身につけるためには何をすればよいか」と聞いた。孔子は、お前は磨かれていないからもうちょっと磨かれなさい。磨くためにはお前より頭の良い人のところ、それからお前より仁があると思う人のところに行きなさい。自分より上だと思える人を探してよく自分を磨きなさい。そうしなければお前は鼻が高くてもどうにもならない。鼻をへし折るための科白がこれでございます。

あと時間が少しあるので、今まで喋ったことのない新聞の見方で、広告の話です。「毎日活き活き健康の旅は血流にあり」足裏のツボが書いてあります。知り合いでツボを知っている専門家がいるので今やりとりしています。それから「鬼平犯科帳 観光資源」鬼平犯

科帳は好きです。あと縄文人の新しい説が出てきた。これはゲノムでDNAを調べることで日本人のルーツが見えてきた。それからもう一つ緑内障。今まで眼医者に行って眼圧が高くなるとどうなるかということはあったが、これを見ると眼圧が高くなると目が潰れますという解説です。眼圧が高くなると聞いても真剣に考えていなかったけれど、目が見えなくなったら困るので、眼医者に行ったらこれを聞こうという気になりました。ということで新聞には他の活用がございました。

新聞の見方で、なぜ広告の話をしたかという、足裏ツボの専門家とのやり取りしている中で「何故いろいろと興味をもつのですか」と聞かれて、考えていたら新聞を見ていると引っ掛かる物がいっぱいある。自分が見た瞬間に興味湧くから、その専門の本を取って、書いた人が面白いなと思ったら、その人に会いに行き話を聞く。興味を持った物に関しては専門家の話を聞く。顔と顔をつき合わせて話を聞くというところまでは興味を持った物はやります。本物の専門家になると教えるものは上手です。エセ専門家は、いくら聞いても分からないし、書いた本はさらに分からない。でも簡単に専門家が分かりやすく書いた本は、あれは罪ですね。

法演の四戒で「好語不可説尽（こうごときつくすべからず）」という言葉があって、できた人は、この人になんとか分からせようと思って一生懸命に細かく説明していく。聞いている人は何となく分かったような気分になる。分かりやすく説明することは考えものだという事です。

思い出したのですが、自転車の乗り方と同じだなと感じました。子供の頃、自転車に乗りたいと思って練習をしていました。自転車の後ろを兄が押さえてくれている間はスイスイ気持ちよく走っていた。後ろを見たら兄はいない。兄の手が離れていると思った瞬間にぐらぐらして倒れた。それから自分なりに自転車の乗り方を覚えたのは、ずっと自転車に乗っていたら目の前に大木がある。このままいったらぶつかると思うのだけど、どうやって止めればいいのか分からない。必死になって止まろうとしたが、けっきょく大木にぶつかってひっくり返って目を回した。

物を覚えるということは、体で、身に染みて感じないと覚えません。恐怖感を持ちすぎると危ないですが、結果的にはそう感じます。水泳も高校で教えられた時は、縄を体に括り付けて縄を持っている人がプールの外にいる。子供たちは腰に縄を付けたまま泳げと放り込まれる。どうやればいいのか分からないけれど、苦しいからもがいて、なんとか向こうまで行く。本当に溺れそうになったら引っ張って引き上げるから死なない。あの頃はそれで上手に水泳になじんで覚える人と、もう水泳は嫌だという人と両極端が生まれたな。

それは「好語不可説尽」良い言葉は説明しなさんな。分かるべき時には分かる。そういう時期が来た時には分かる。体験で分かる。ここに天風先生の言われているものが、基本哲学の「知足」がぴったりです。色々な表現を使ってやっていますから、これは良いことだと思います。「足るを知る」が何でも鍵になるでしょう。

テーマ「自然」

自然はこの言葉ひとつだけで良いと思う。「柳は緑 花は紅」何回か言っていますから、聞かれていると思います。「染めいだす人はなけれど 春来れば 柳は緑 花は紅」聞いたことありますよね。

春が来ると、自然とごく当たり前に柳は青々として、花は紅の花を咲かせる。そういう心境になりなさい。それが自然を師匠にするところの心持ちのようでして、あまり解説してはいけないと言ったばかりだから、天風先生のいう人間として完成を目指すのであれば、仏教で説明するのは、なかなか難しい。ヨガもあるけれども大変なので「心身統一」という物の考えかたを発明しました。そうすると誰もが簡単に分かる。本を読むと簡単ではありませんが、一般大衆に向かって話をするものはとても分かりやすい。世間的に老若男女が分かるような話を一所懸命に工夫して考えたということで誰にでも分かる言いかたをしています。その中でこれとは思ったら、少しずつ専門的な言葉を使っています。そちらは本になっていますね。『錬身抄』です。その『錬身抄』の前には『盛大な人生』という本があります。

『盛大な人生』の中に「十牛図」の解説があります。「十牛図」は、まともな人間になりたいと思ったら十牛の図で例えています。

牛を訪ねる。目的を持った。そういうところが入口。今回の「柳は緑花は紅」は修行の段階でずっとここらへんで悟っていった。悟りつくしたら、このへんの境地になるのは返本還源（へんぼんげんげ）という。いわゆる 9 番目の悟りのポジションの説明になります。だから結構、「柳は緑花は紅」って難しいんです。まあでも「柳は緑花は紅」の説明になっています。

恒例の質問

- ・ 今月、楽しいこと、嬉しいこと、結構いっぱいあったという人、どうでしょう。
- ・ 嘘は比較的つかなかった。
ああ良いですね、とても良いですね。
- ・ 有難うと言ひ有難うと言われた。
どんどん増えている。凄いですね。
- ・ 健康法を実践した。
これも凄いな。

・昨夜寝る時に「今日は良かったな」どうでしょう。それで「明日も良かったな」は、どうでしょう。

天風先生の「柳は緑 花は紅」面白そうな説明でこういうものがありました。宮本武蔵に、肥後の細川公が巖流島の決闘が終わった後に召し抱えて質問している話がありました。それは宮本武蔵に命のやり取りを 8 回以上もしていたが、負けなかった秘訣は、どのようなことをしたかということです。

武蔵は枝を適当に切ってぶら下げて、手当たり次第に叩いていた。肝心なことは、木の枝には怖いという感情がないから、叩いたら叩いた通り返ってくるので自分が時々ボコボコにやられました。人間の場合だと怖いという感情が出る。それを避ける術を身に付けた、間合いを見極めたことが私の兵法の極意です。人間相手だと私が「えい」と言うと逃げるが、木の枝は「えい」とやったら跳ね返ってくる。私が避けるので、心が全然違いましたという会話をしています。

「柳は緑花は紅」は、怖いという感情はなく、人が勝手に持つ感情だから、命のやり取りをする時も平静で穏やかで恐怖心を持たない絶対の境地にたてば「柳は緑花は紅」と平気な顔で生きて帰れるんじゃないかなろうかというところで終了にいたします。

有難うございました。